

教科	技術・家庭科（技術分野）	学年	1年	標準授業時間数	35時間
----	--------------	----	----	---------	------

目 標	教科目標	生活に必要な基礎的な知識と技術の習得を通して、生活と技術との関わりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。
	具体目標 (到達目標)	実践的・体験的な学習活動を通して、ものづくりに関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、技術が果たす役割について理解を深め、それらを適切に活用する能力と態度を育てる。

評 価	観 点	生活や技術への関心・意欲・態度	25%	ものづくりに関する技術について関心を持ち、生活をよりよくするために知識と技術を進んで活用しようとする。
		生活を創意工夫する能力	25%	生活と技術との関わりについて見直し、課題を見つけるとともに、その解決のために技術を適切に活用して工夫し創造する。
		生活の技能	25%	ものづくりに必要な基礎的な技術を身につけ、その技術を安全で適切に活用できる。
		生活や技術についての知識・理解	25%	生活や産業の中での技術の役割について理解し、ものづくりに必要な基礎的な知識を身につけている。
	材 料	授業態度、学習ノート、作品の評価、定期テスト、提出物状況、忘れ物の点検。		
	方 法	以上4つの観点を総合的に判断し評価する。		

学 習 方 法	使用教材	教科書 技術家庭科 技術分野 (開隆堂)
	学習形態	図面の作成（個人）、製作活動（グループ）で学習を行う。
	学 校	身回りの製品を通して部品の使われ方とその性質、加工などを理解する。 材質の違いを理解させるために、実際に、材料を切る、穴をあける、曲げるという実践的・体験的な作業をする。
		日常生活から問題を発見させ、自分の取り組むテーマを決定させるとともに、材料取り、部品の加工、組み立て、仕上げにおいても多様なテーマ（製作物）に対応できるようにする。 ものづくりを通して、生産する過程の大変さや生産者の苦勞、生産から流通するまでの過程の多さなどを知るとともに、環境問題にも配慮する。全体を通して機械・工具の安全面に、注意を促すとともに安全意識を高める。
家 庭	教科書や学習ノートを見直す。 授業の内容を教科書などを参考に自分がわかりやすいように整理する。	
	習ったことや分かったことを家庭生活の中で生かしていく。 課題をさらに自分で追求していく。	

年間授業計画

月	学習の内容	時数	学習のポイント
4	ものをつくる技術について考えよう ・ものをつくる技術がどのように進歩してきたか知る。 ・自分の身の回りのものをつくるには、どんな技術が活用されているか知る。	1	個人や班で考え、発表する。  道具を中心に考える。 木工室や金工室にある物を知る。
	材料の使われ方を調べよう ・身の回りの製品は、何をどのようにしてつくつてあるか調べる。 ・材料の性質を調べたり考える。 ・材料を加工する機械や工具について使ったり調べてみたりする。	1	木材や金属の長所・短所を考える。 木材の繊維方向による強度の違いを知る。 繊維方向に注意をする。
	つくりたいものを考え、構想をまとめよう ・機能を考えたり、材料の選び方を知る。 ・使いやすく丈夫になるような構造を考える。	2	プリント学習 キャビネット図は奥行きに長さに注意をする。 正面の選び方に気をつける。
5	・構想を表すために、キャビネット図と等角図の書き方を理解させる。	4	
6	・参考程度に第3角法による正投影図にも触れる。	2	
	材料を加工して部品にしよう ・材料表や工程表を作成する。	2	作業内容や適切な工具についてのポイントを押さえる。
7	・材料にけがきをする。	4	さしがねの使い方に気をつける。
9	・材料の切断をする。 両刃のこぎり、糸のこ盤	6	両刃のこぎりや糸のこ盤の機能を知る。
10			大きな部品を切断する時には二人一組で作業をする。(板材の割れ防止補助作業)
11	・部品の加工をする。 こぐち削り機、木工やすり、四つ目きり、かなな、卓上ボール盤	6	こぐち削り機や卓上ボール盤の取り扱いに注意をする。
12	部品を組み立てて仕上げよう	4	げんのうの使い方に注意をする。
1	・げんのう、直角定規、木工用ボンド、紙ヤスリ、ワックス		直角に組み立てることと、木工用ボンドやワックスのつけすぎに気をつける。
2			
3	これからの生活と技術について考えよう ・人を大切にする技術を調べよう。	1	木材や森林の働きを知るとともに有効な使い方などを再度考える。
合計時数		35	

